

平成30年9月15日（土）

# 日本緑化工学会

## 平成30年 通常総会

東京都市大学 横浜キャンパス 3号館3階3-3B教室  
(横浜市都筑区牛久保西)

### － 次 第 －

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議 案
  - (1) 第一号議案 平成29年度事業報告
  - (2) 第二号議案 平成29年度決算報告
  - (3) 第三号議案 平成30年度事業計画案
  - (4) 第四号議案 平成30年度収支予算案
  - (5) 第五号議案 名誉会員の推挙
  - (6) 第六号議案 会則の改定
  - (7) その他
5. 閉 会

## 第一号議案

日本緑化工学会 平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 8 月 1 日～平成 30 年 7 月 31 日)

### 1. 第 48 回日本緑化工学会大会 3 学会合同大会【ELR2017 名古屋】として開催

開催年月日：平成 29 (2017) 年 9 月 22 日～25 日

開催地：名古屋大学 (名古屋市千種区不老町) ほか

主催：日本緑化工学会, 日本景観生態学会, 応用生態工学会

共催：名古屋大学大学院環境学研究科, LEE 国際コンソーシアム

大会参加者：724 名 懇親会参加者：291 名

うち 日本緑化工学会参加者 会員 150, 学生 43, 合計 193 名

発表題数：305 題 +ICLEE 発表 11 題

口頭発表 72 件 / ポスター発表 233 件

うち 日本緑化工学会からの発表 論文 30, 技術報告 44, 研究交流発表 57

優秀ポスター賞：5 分野に分けて 20 件選考し表彰した

研究集会：3 学会 (日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会) に所属する

会員から 14 の研究集会が企画・実施された

公開シンポジウム, 国際シンポジウム, エクスカーションを会期中に開催 (後述)

### 2. シンポジウム

#### (1) ELR2017 名古屋 公開シンポジウム

開催年月日：2017 年 9 月 24 日 (日) 14:30 ~ 17:00

開催地：名古屋大学 豊田講堂

テーマ：「自然の仕組みを暮らしに賢く活かすーグリーンインフラへの招待」

共催：グリーンインフラ研究会, 名古屋大学環境科学研究科

後援：愛知県, 名古屋市

#### (2) ELR2017 名古屋 国際シンポジウム

開催年月日：2017 年 9 月 23 日 (土) 15:45 ~ 17:45

開催地：名古屋大学理学部坂田平田ホール

テーマ：「Landscape and Green Infrastructure, a key to sustainability」

### 3. 現地見学会

#### (1) ELR2017 名古屋 エクスカーション

開催年月日：2017 年 9 月 25 日 (月)

開催地：名古屋大学 豊田講堂

テーマ：「環境配慮型の社会基盤整備先進事例を『自然の仕組みを活かした国土や地域の管理＝グリーンインフラストラクチャーの整備』の視点から捉え直す」

参加人数：60 名

### 4. 研究会等 (研究部会主催)

#### (1) 斜面緑化研究部会

- ① 現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会 (第 6 回) ~斜面緑化におけるシカ被害の現状と課題~ (ELR2017 研究集会として開催)

開催日時：2017 年 9 月 22 日 (金) 17:15~19:15

開催場所：名古屋大学東山キャンパス 環境総合館 講義室 2

参加者数：58 名

- ② 現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会 (第 7 回) ~法面に生育する高木類の維持管理について~

開催日時：2017 年 12 月 1 日 (金) 15:00~17:00 勉強会終了後, 親睦会を開催。

開催場所：東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館 4 階 441 教室

参加者数：79 名

- ③ 第174回 技術交流会（公益財団法人高速道路調査会との共同企画）  
開催日時： 2018年2月16日（金）16:00～20:30  
開催場所： 公益財団法人 高速道路調査会 2階会議室  
参加者数： 35名
- ④ 現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会（第8回）～植生動態の評価とマネジメントへの活用～  
開催日時： 2018年6月28日（木）15:30～17:30（予定）  
開催場所： 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス B11棟 2階 第5講義室  
参加者数： 30名
- (2) 生態・環境緑化研究部会
- ① ELR2017名古屋にて研究集会を開催  
開催日時： 2017年9月23日（土）13:30～15:30  
開催場所： 名古屋大学東山キャンパス ES館 ESホール  
テーマ： 地域性種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか  
参加者数： 80名
- ② 第43巻3号（2018年2月）に特集を企画・掲載  
テーマ： 特集「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか  
—阿蘇における復元と種苗確保の取り組み」
- ③ 第43巻4号に2017年採取種子の性状調査についての技術報告を執筆・投稿（幹事2名）  
テーマ： 阿蘇の草原再生への活用を目指したススキ種子現地採取の試み
- ④ 「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」の実施・継続
- ⑤ 東北建設系技術交流会 の後援
- (3) 乾燥地緑化研究部会 第23回 乾燥地緑化研究部会シンポジウムを開催  
開催日時： 2018年2月11日（日）13:00～16:30  
開催場所： 東京都市大学 二子玉川夢キャンパス（東京都世田谷区）  
テーマ： 乾燥地の生態系とその課題  
7. スーダンで乾燥地を支える樹木～アカシアとメスキート～  
参加者数： 22名  
共催： 東京都市大学，鳥取大学乾燥地研究センター，鳥取大学国際乾燥地研究教育機構
- (4) 積雪寒冷地緑化研究部会 現場技術者のための技術講習会を開催  
開催日時： 2018年7月4日（日）13:00～16:30  
開催場所： 帯広畜産大学 土木工学実験室（北海道帯広市）  
テーマ： 法面緑化用植物を知る・測る  
参加者数： 22名
- (5) 緑・健康研究部会
- ① ELR2017名古屋にて研究集会を開催  
開催日時： 2017年9月23日（土）13:30～15:30  
開催場所： 名古屋大学東山キャンパス ES館 ES021  
テーマ： 公衆衛生からみたグリーンインフラ  
参加者数： 70名
- ② ワークショップを開催  
開催日時： 2018年5月13日（日）10:00～17:00  
開催場所： グランフロント大阪 うめきた広場  
テーマ： なにわの緑に癒されてみまへんか？  
参加者数： 16名
- (6) 生物多様性緑化研究部会 ELR2017名古屋にて研究集会を開催  
開催日時： 2017年9月22日（金）15:00～17:00  
開催場所： 名古屋大学東山キャンパス ES館 ESホール  
テーマ： ポテンシャルに対応した多摩川河川敷の目標とする自然の変化と合意形成の可能性  
参加者数： 50名

## (7) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

### ① 研究部会の立ち上げ

緑を活かした沿岸域の防災・減災および環境保全をテーマに、海岸林・沿岸域緑化研究部会を4名で立ち上げ、理事会で承認。

### ② シンポジウムの後援

開催日時： 2018年5月25日（金）

開催場所： 静岡県浜松市白脇協働センター・ホール

テーマ： 自然と歴史を活かした防災・減災 ―東日本大震災の学びを備える側と共有する―

主催： 「地域の自然と歴史に学ぶ里浜復興」研究会

## 5. 学会誌の発行

(1) 第43巻1号：平成29年8月31日発行 350ページ（第48回大会特集号）

(2) 第43巻2号：平成29年11月30日発行 80ページ

(3) 第43巻3号：平成30年2月28日発行 141ページ

(4) 第43巻4号：平成30年5月31日発行 84ページ

※第43巻2号に特集「乾燥地の生態とその課題6」を掲載

第43巻3号に特集「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか―阿蘇における復元と種苗確保の取り組み」および「公衆衛生から見たグリーンインフラ」を掲載。

第43巻4号に特集「地域性苗木を生産するトップランナー」および「乾燥地の生態とその課題7」を掲載。

## 6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行

(1) Vol. 14 No. 1：平成30年1月発行 1-185ページ（18編）

(2) Vol. 14 No. 2：平成30年7月発行 187-277ページ（10編）

Impact Factor は0.815（2018年9月）

## 7. 平成29年度日本緑化工学会賞の授与

技術賞： 東日本高速道路株式会社 木更津工事事務所

「首都圏中央連絡自動車道（圏央道）における野生動物の道路横断構造物の設置」

研究奨励賞： 七海 絵里香 氏

「緑化植物との関わりの史的研究」

研究奨励賞： 矢動丸 琴子 氏

「オフィス緑化が勤務者の心理に与える影響に関する研究」

研究奨励賞： 小宅 由似 氏

「法面における植生ならびに土壌に関する一連の研究」

技術奨励賞： 小川 泰浩 氏 および 東京都三宅支庁産業課

「火山性荒廃地の環境保全に配慮した治山緑化工法の開発」

## 8. CPD

(1) 緑化・環境 CPD 協議会 会員数 902名（うち当学会員 704名）

(2) 講習会などの認定と、CPD 参加証明書の発行

今期の CPD 認定行事による CPD ポイントの認定は、合計 95.0P となった。

緑化工学会が、シンポジウム 大会 研究集会などを実施し、54.5P 発行した。

国土環境緑化協会連合会が講習会を6回実施し、31.5P 発行した。

NPO 法人日本緑化工協会が講習会を1回実施し、9.0P 発行した。

各会場で、CPD 参加証明書の発行を行った。

(3) CPD プログラム認定委員会

プログラム認定を随時行った。

(4) その他

ホームページを適宜更新し、認定行事の広報を行った。

## 9. 学会広報事業

- (1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>
- (3) メールによる案内「ニュースメール」の配信  
アドレスが登録されている個人会員と、登録要請のあった賛助会員へ連絡事項を配信

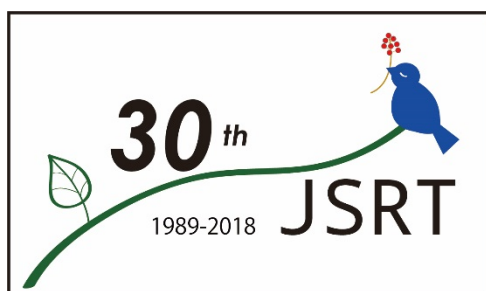
## 10. 研究部門におけるその他活動

- (1) 防災学術連携体における活動
  1. 防災学術連携体 平成 30 年度総会に参加（田中委員）  
開催日時： 2018 年 6 月 5 日（火）10:30～11:30
  2. 防災減災学術連携委員会と防災学術連携体の連絡会に参加（田中委員）  
開催日時： 2018 年 6 月 5 日（火）14:00～17:30  
「防災学術連携体 構成 56 学会の報告と意見で「日本緑化工学会のあゆみ」で学会を紹介

## 11. 学会設立 30 周年事業

記念事業検討委員会では、学会設立 30 周年にあたり次の事業を実施した。

- 1) 内外に学会設立 30 周年の周知を図るための「記念ロゴ」の作成。
- 2) 学会誌における「学会設立 30 周年特集」の企画。
- 3) 緑化植物問題検討委員会で検討する新提言を「学会設立 30 周年記念冊子」として編集して内外に配布する方針の決定。



日本緑化工学会 学会設立 30 周年  
The Japanese Society of Revegetation Technology



## 12. 緑化植物問題の検討

緑化植物問題検討委員会では、2018 年 3 月 3 日、7 月 21 日に会議を 2 回開催し、地域生態系に配慮した緑化植物の取り扱い方に関する提言（案）について検討した。

## 13. その他事業

- (1) あまみずコーディネータ養成講座（2017 年 12 月 15-16 日・福岡大学）の後援
- (2) 「生態系サービスの享受を最大化する『里浜復興シナリオ』創出」プロジェクト主催  
フォーラム『「海岸林から考えるふるさと・里浜の復興デザイン」』の後援  
開催年月日：2018 年 2 月 24 日  
開催地：東北学院大学 土樋キャンパス 押川記念ホール
- (3) (一財) 日本造園修景協会京都府支部 30 周年記念事業・第 3 回リレーシンポジウム／「緑の文化 その伝統と創生 探訪 造園の世界」（2018 年 7 月 7 日・京都府立大学）への協力
- (4) 日本緑化工協会主催「第 39 回緑化工技術講習会」の後援  
開催年月日：2018 年 2 月 1 日・2 日  
開催地：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）  
備考：講師派遣

14. 会員数（平成 30 年 7 月末現在。括弧内は←前年度末，←前々年度末，←前々々年度末 の数）

- (1) 名誉会員：6 名           (← 6 名 ← 7 名 ← 7 名)
- (2) 正 会 員：604 名       (← 606 名 ←613 名 ← 609 名)
- (3) 学生会員：102 名       (← 99 名 ← 84 名 ← 110 名)
- (4) 賛助会員：53 団体      (← 55 団体 ← 55 団体 ←55 団体)
- (5) 購読会員：35 団体      (← 37 団体 ← 38 団体 ←40 団体)

※ 学生会員に対する会費の優遇措置を，2015 年度より実施，継続

## 平成29(2018)年度 収支報告書

(平成29年 8月 1日 ~ 平成30年 7月31日)

### 日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,550,000	5,320,000	770,000	116.92	正会員605名/ 今年度入金544名(@8,000)+ 未収金回収60名480,000円
	賛助会員費	1,925,000	1,855,000	-70,000	96.36	賛助会員53団体/ 今年度入金57団体(@35,000)+ 未収金回収2団体70,000円
	購読会員費	304,000	288,000	-16,000	94.74	購読会員36団体/ 今年度入金35団体(@8000)+ 未収金回収1団体8,000円
	学生会員費	243,600	412,000	168,400	169.13	学生会員99名/ 今年度入金66名(@4000)+ 未収金回収23名88,500円
	入会登録料	35,000	42,000	7,000	120.00	60名(@700)
	英文誌購読料 ※		564,900	564,900		正会員68名(@7350円)学生会員4名(@4200円)英文誌として別処理としていたものを、今期から合算計上
	投 稿 料	800,000	694,000	-106,000	86.75	通常号(論文・短報)、大会号(論文技術報告)、未収金24,000円
	広 告 料	1,450,000	880,000	-570,000	60.69	Vol.43-1 ~ Vol.43-4 分、未収金750,000円
	雑 収 入	1,450,000	893,866	-556,134	61.65	別刷・BN販売収入、著作権使用料、 2017年2月現地見学会返金、利息等、未収金26,000円
	助 成 金 ※		980,000	980,000		今年度取得助成を計上 (阿蘇プロジェクト助成:公財自然保護助成基金)
	小 計	10,757,600	11,929,766	1,172,166	110.90	
	繰 越 金	3,640,267	3,640,267			
合 計	14,397,867	15,570,033	1,172,166	108.14		
支出の部	会 議 費	65,000	80,944	15,944	124.53	理事会・評議会会議室借上費 他
	旅費交通費	800,000	417,156	-382,844	52.14	理事会交通費
	事務人件費	300,000	394,678	94,678	131.56	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通 信 費	750,000	781,424	31,424	104.19	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	120,000	172,334	52,334	143.61	総務部会事務用品費、コピーリース料
	学会誌刊行費	6,000,000	6,740,134	740,134	112.34	学会誌編集・製作委託費、J-Stage登録費用
	英文誌出版分担金 ※		691,800	691,800		英文誌出版補助費150,000円、英文誌購読費 541,800円
	大会補助費	150,000	0	-150,000	0.00	大会開催補助費
	シンポジウム・見学会補助費	200,000	0	-200,000	0.00	
	研究部会補助費	100,000	34,460	-65,540	34.46	
	委員会等経費	100,000	445,498	345,498	445.50	植物委員会、編集委員会、大会誌編集委員会
	事務委託費	1,850,000	1,877,688	27,688	101.50	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務、 英文誌刊行事務委託費等)
	CPD等経費	70,000	70,000	0	100.00	管理経費
	諸 会 費	160,000	150,000	-10,000	93.75	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	震災特別対策費	50,000	0	-50,000	0.00	震災調査費用
	雑費	50,000	51,632	1,632	103.26	振込手数料 他
	小 計	10,765,000	11,907,748			
予備費	3,632,867	3,662,285	29,418	100.81	慶弔費 他	
合 計	14,397,867	15,570,033	1,172,166	108.14		

次期繰越金	3,632,867	3,662,285
-------	-----------	-----------

注) ※ 新たに設けた費目

平成29年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

平成 30年 9月 14日

日本緑化工学会経理担当理事 中 村 剛

## 平成29(2017)年度 貸借対照表

平成30年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	26,193	前受け会費	191,900
預 け 金	3,447,264	未払い費用	593,097
前 払 金	261,975		
未 収 金	711,850	次期繰越金	3,662,285
合 計	4,447,282	合 計	4,447,282

### － 財 産 目 録 －

#### 資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	26,193
預 け 金	みずほ銀行 本郷支店	931,418
	本郷郵便局	2,515,846
	小 計 (*1)	3,447,264
前 払 金	英文誌購読費 14巻2号	261,975
	小 計	261,975
未 収 金	BN販売	6,350
	別刷り代	9,000
	投稿料、会費	696,500
	小 計	711,850
合 計		4,447,282

(\*1) 自然保護助成基金からの助成金 980,000円を含む

#### 負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受け会費	正会員	88,800
	学生会員	80,000
	正会員(英文誌)	14,700
	学生会員(英文誌)	8,400
	小 計	191,900
未払費用	事務人件費	120,000
	事務委託費	469,422
	学会誌刊行費(英文誌)	3,675
	小 計	593,097
合 計		784,997

### － 会 計 監 査 報 告 －

平成29年度(平成29年 8月 1日 ～ 平成30年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

平成 年 月 日

平成29年度 日本緑化工学会 監事

同上 監事



### 第三号議案

日本緑化工学会 平成 30 年度事業計画 (案)

(平成 30 年 8 月 1 日～平成 31 年 (2019 年) 7 月 31 日)

#### 1. 第 49 回日本緑化工学会大会 —日本緑化工学会設立 30 周年記念大会—

開催年月日：平成 30 年 9 月 15 日～17 日

開催地：東京都市大学 横浜キャンパス (神奈川県横浜市)

発表題数：95 題 (論文 19 件, 技術報告 33 件, 研究交流発表 43 件)

(口頭発表 17 件, ポスター発表 78 件)

#### 日本緑化工学会設立 30 周年記念シンポジウム

「持続可能な都市創造に果たすみどりの役割」(9 月 15 日)

現地見学会 二子玉川ライズ (東京都世田谷区) (9 月 17 日)

※ 第 50 回大会は 2019 年 9 月に九州産業大学にて開催予定

#### 2. 研究会等

##### (1) 斜面緑化研究部会

- ① 第 49 回日本緑化工学会にて生態・環境緑化研究部会と合同の研究集会を企画

開催日時：2018 年 9 月 15 日 (土) 13:30～15:30

開催場所：東京都市大学 横浜キャンパス 3 号館 3 階 33K 教室

テーマ：緑化斜面のシカ食害の実態から考える植生管理のあり方

- ② 「現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会」を年 3～4 回のペース (12 月, 3 月, 6 月, 9 月) で開催できるよう調整していく予定。

##### (2) 都市緑化技術研究部会

- ① 第 49 回日本緑化工学会にて緑・健康研究部会と生物多様性研究部会とで合同シンポジウムと現地見学会を企画

開催日時：2018 年 9 月 15 日 (土) 15:30～17:45

開催場所：東京都市大学 横浜キャンパス 31A ホール  
二子玉川ライズ (東京都世田谷区)

テーマ：持続可能な都市創造に果たすみどりの役割

- ② 来年春にかけて、都市緑化とグリーンインフラ施策の勉強会を 1～2 回開催予定。

##### (3) 生態・環境緑化研究部会

- ① 第 49 回日本緑化工学会にて斜面緑化研究部会と合同の研究集会を企画 (前述)

開催日時：2018 年 9 月 15 日 (土) 13:30～15:30

開催場所：東京都市大学 横浜キャンパス 3 号館 3 階 33K 教室

テーマ：「緑化斜面のシカ食害の実態から考える植生管理のあり方」

- ② 「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」の企画・実施

[http://www.jsrt.jp/tech/ASO\\_project.html](http://www.jsrt.jp/tech/ASO_project.html)

- ③ NEXCO 東日本の協力により、工事中の東北中央道の現地見学会を企画 (2018 年秋季)

##### (4) 乾燥地緑化研究部会

当研究部会全体,あるいは当研究部会の現組織における活動を振り返り,今後の活動の方向性を語るような座談会を開催することを検討。

##### (5) 積雪寒冷地緑化研究部会

30 年度も現場技術者のための講習会を検討しているが詳細は検討中。

##### (6) 緑・健康研究部会

- ① 第 49 回日本緑化工学会にて都市緑化技術研究部会と生物多様性研究部会とで合同シンポジウムと現地見学会を企画

開催日時：2018 年 9 月 15 日 (土) 15:30～17:45

開催場所：東京都市大学 横浜キャンパス 31A ホール

二子玉川ライズ（東京都世田谷区）

テーマ： 持続可能な都市創造に果たすみどりの役割

② 「緑と人の健康」に関するワークショップを開催予定。時期および開催場所は未定。

(7) 生物多様性緑化研究部会

- ① 多摩丘陵の公園緑地において防災問題を抱える現場の見学会の実施。
- ② 生田緑地における地形の勉強会の開催。
- ③ 地形を通して地域の生物多様性を知る活動の実施。

(8) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

- ① 第1回 公開勉強会を開催

開催日時： 2018年10月13日（土）10:00～17:20

開催場所： グリーン産業株式会社 3階会議室（新潟県新潟市）

テーマ： 新潟に学ぶ海岸の防災と環境保全

参加者数： 20名を予定（先着）

- ② 第2回 公開勉強会を実施予定。時期や場所、内容は調整中。

(現在活動中の緑化工研究部会)

斜面緑化研究部会      都市緑化技術研究部会      生態・環境緑化研究部会

乾燥地緑化研究部会      積雪寒冷地緑化研究部会      緑・健康研究部会

生物多様性緑化研究部会      海岸林・沿岸域緑化研究部会

3. シンポジウム

年1回以上開催予定（下記以外については詳細検討中）

(1) 学会設立30周年記念大会シンポジウム

開催予定年月日：2018年9月15日（日） 15:30～18:00

開催地：東京都市大学

テーマ：「持続可能な都市創造に果たすみどりの役割」

4. 現地見学会

年1回以上開催予定（下記以外については詳細検討中）

(1) シンポジウムと連動した見学会

開催年月日：2017年9月17日（月）

開催地：二子玉川ライズ

テーマ(1)「都市防災：特に樹木の防災能力と維持・管理について」

テーマ(2)「屋上緑化の多様な評価手法について 米国農務省が進める i-Tree Eco 生態系サービス評価の試み」

テーマ(3)「市民科学とボランティア」

テーマ(4)「住民の健康と緑化」

5. 学会誌の発行：4回発行予定（第44巻1号～4号）

第44巻1号（既刊）：平成30年8月31日発行（第49回大会特集号） 248ページ

第44巻2号：平成30年11月末 発行予定

第44巻3号：平成31年2月末 発行予定

第44巻4号：平成31年5月末 発行予定

6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行：2回発行予定（Vol. 15 No. 1, No. 2）

7. 学会賞の授与

平成30年度日本緑化工学会賞の授与（2019年総会にて授与予定）

8. CPD

- (1) CPD 行事の認定と CPD ポイントの付与, CPD 参加証明書の発行
- (2) HP の更新
- (3) 必要に応じ理事会, 検討部会, 認定委員会を開催 (通常の打合せは E-mail にて行う)

#### 9. 学会広報事業

- (1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 会員向け連絡メールマガジンの配信, 体制確保
- (3) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

#### 10. 学会設立 30 周年事業の企画検討

- (1) 「記念ロゴ」を活用したシンポジウム・研究集会等による学会設立 30 周年 PR の推進
- (2) 「学会設立 30 周年特集」を学会誌第 44 巻第 2 号 (2018 年 11 月発行) に掲載予定。
- (3) 「学会設立 30 周年記念冊子」を編纂して 2019 年 8 月に配布予定。

#### 11. 緑化植物問題の検討

緑化植物問題検討委員会において会議を 4 回開催し, 地域生態系に配慮した緑化植物の取り扱い方に関する提言と実務レベルのガイドラインを作成する。

#### 12. その他

- (1) 防災学術連携体における活動
  1. 総会, 防災減災学術連携委員会及び防災学術連携体の連絡会に参加予定。
  2. 防災学術連携体からの依頼の中で日本緑化工学会が参加できる内容については対応予定。

## 平成30(2018年度) 収支予算書 <案>

(平成30年8月1日～平成31年7月31日)

### 日本緑化工学会

	費目	H30年度 予算額 (A)	H29年度 予算額 (B)	差額 (A-B)	摘要
収入の部	正会員費	4,832,000	4,550,000	282,000	会員数 604名 (@8,000)
	賛助会員費	1,855,000	1,925,000	-70,000	会員数 53団体 (@35,000)
	購読会員費	280,000	304,000	-24,000	会員数 35団体 (@8,000)
	学生会員費	408,000	243,600	164,400	会員数 102名 (@4,000)
	入会登録料	42,000	35,000	7,000	60名 (@700)
	英文誌購読料※	516,600	—	516,600	正会員 68名 (@7350), 学生会員 4名 (@4200)
	投稿料	800,000	800,000	0	
	広告料	1,450,000	1,450,000	0	Vol.44-1～Vol.44-4
	雑収入	1,450,000	1,450,000	0	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小計	11,633,600	10,757,600	876,000	
	前年度繰越金	3,662,285	3,640,267	22,018	
	<b>合計</b>	<b>15,295,885</b>	<b>14,397,867</b>	<b>898,018</b>	
支出の部	会議費	70,000	65,000	5,000	理事会・評議会会議室借上費 他
	旅費交通費	500,000	800,000	-300,000	理事会交通費
	事務人件費	300,000	300,000	0	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通信費	750,000	750,000	0	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	120,000	120,000	0	総務部会事務用品費、コピーリース料
	学会誌刊行費	6,000,000	6,000,000	0	学会誌編集・製作委託費、J-Stage登録費用、英文誌出版分担金
	英文誌出版分担金※	700,000	—	700,000	
	大会補助費	150,000	150,000	0	大会開催補助費
	シンポジウム・見学会補助費	150,000	200,000	-50,000	
	研究部会補助費	100,000	100,000	0	
	プロジェクト補助費※	980,000	—	980,000	
	委員会等経費	200,000	100,000	100,000	編集委員会、大会誌編集委員会
	事務委託費	1,850,000	1,850,000	0	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務、英文誌刊行事務委託費等)
	CPD等経費	70,000	70,000	0	管理経費
	諸会費	150,000	160,000	-10,000	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	震災特別対策費	50,000	50,000	0	震災調査費用
	雑費	50,000	50,000	0	振込手数料 他
	小計	12,190,000	10,765,000	1,425,000	
	予備費	3,105,885	3,632,867	-526,982	慶弔費 他
<b>合計</b>	<b>15,295,885</b>	<b>14,397,867</b>	<b>898,018</b>		

注)※ 新たに設けた費目

平成29年9月14日  
日本緑化工学会経理担当理事 中村 剛

第五号議案 名誉会員の推挙（1名）

氏名：

亀山 章

現住所：

東京都日野市日野

推挙理由：

亀山章先生は、日本緑化工学会の設立にご尽力され、1989年から理事、1997～2001年には副会長、2001～2003年には会長、2003～2005年には監事を務められるなど、長きにわたって日本緑化工学会の発展にご尽力されてきました。緑化学における自然や野生生物との共存をめざして、高速道路の法面緑化や動物の移動経路の確保ならびに生物多様性緑化、さらには景観生態学といった幅広い分野においてご研究を進められるとともに、本学会を支える技術者を育ててこられました。特に、生物多様性緑化については大学の演習林を活用した法面緑化試験によって緑化工学会賞(技術賞)「東京農工大学フィールドミュージアム唐沢山における在来種をもちいた法面緑化試験」を2008年に授与されています。

会長を務められていたときに中心になって編集された大部の「環境緑化の事典」(日本緑化工学会編2005)を刊行され、緑化学の一層の学問的な確立に貢献されました。また、「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言」(2002)をとりまとめ、基本的な考え方を示すとともに、社会的に大きな影響を發揮しました。さらに、「生物多様性緑化ハンドブック」(2006)を監修されて、生物多様性緑化の考え方を広く普及されました。それらの功績によって、2010年には日本緑化工学会賞(功績賞)を受賞されています。

また、東京都公園協会井下賞、国立公園協会田村賞、日本公園緑地協会北村賞、とうきゅう環境財団社会貢献学術賞、日本造園学会上原敬二賞などを受賞されており、これに加えて、文部科学省文化審議会文化財分科会第三専門調査会名勝委員会委員長、建設省道路審議会環境部会専門委員、農林水産省政策評価会林野庁専門部会委員、東京都自然環境保全審議会委員、東京都文化財保護審議会委員、長野県環境影響評価技術委員会委員長、長野県文化財保護審議会委員、長野県環境審議会委員など、多数の審議会で社会貢献されました。このように、わが国の環境緑化事業と生物多様性事業の推進に多大なる貢献をされています。

先生は、現在は東京農工大学名誉教授と平行して、公益財団法人日本自然保護協会理事長としてご活躍を続けられています。

以上から、これまでのご功績と緑化学に関するご見識を踏まえると、「名誉会員」として引き続き本学会をご指導いただくのがふさわしいと考えられますので、ここに亀山章先生を名誉会員に推薦いたします。

倉本 宣(明治大学)

日置佳之(鳥取大学)

日本緑化工学会会則 (2018年9月総会改定案)

昭和41年12月16日制定〔日本緑化工研究会〕  
 平成元年5月30日改定〔日本緑化工学会〕  
 平成23年9月10日改定  
 平成30年9月15日改定(案)

(旧) 現会則 改定部分に下線

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は日本緑化工学会と称し、緑の再生、創出、保護、管理等に関する研究を推進し、広く緑化技術の向上発展を図り、もって自然環境の保全、生態系の早期回復、生活環境の改善等に寄与することを目的とする。

(目的)

第2条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 緑化に関する研究、調査ならびに普及
- (2) 研究発表会、研究会、技術検討会、講演会、及び見学会等の開催
- (3) 「日本緑化工学会誌」(和文誌)の刊行
- (4) 「Landscape and Ecological Engineering」(欧文誌)の共同刊行
- (5) 図書、資料等の発行
- (6) 緑化に関する学术交流
- (7) 日本緑化工学会賞の授与
- (8) その他本会の目的達成に必要な事業

第5章 会務

(理事担当)

第33条 本会の会務を執行するため、事業部門と研究部門の2部門を置き、理事の中から部門長を定める。

2. 事業部門には、総務、経理、企画・事業、編集、学術国際交流の各部会を置き、理事の中から担当理事を定め、うち1名を部会長とする。

※委員会規定の新設

(新) 会則 改定案

第1章 総則

(名称)

第1条 本学会は日本緑化工学会と称し、**以下、本会則では本会と称する。英文名称は The Japanese Society of Revegetation Technology (略称は JSRT) とする。**

(目的)

第2条 本会は、緑の再生、創出、保護、管理等に関する研究を推進し、広く緑化技術の向上発展を図り、もって自然環境の保全、生態系の早期回復、生活環境の改善等に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 緑化に関する研究、調査ならびに普及
- (2) 研究発表会、研究会、技術検討会、講演会、及び見学会等の開催
- (3) 「日本緑化工学会誌」(和文誌)の刊行
- (4) 「Landscape and Ecological Engineering」(欧文誌)の共同刊行
- (5) 図書、資料等の発行
- (6) 緑化に関する学术交流
- (7) 日本緑化工学会賞の授与
- (8) その他本会の目的達成に必要な事業

※第4条以降、条数を繰り下げ

第5章 会務

(理事担当)

第34条 本会の会務を執行するため、事業部門と研究部門の2部門を置き、理事の中から部門長を定める。

2. 事業部門には、総務、経理、企画・事業、編集、学術国際交流の各部会を置き、理事の中から担当理事を定め、うち1名を部会長とする。

3. 理事会は、第2条に定める本会の事業を推進するため、以下の委員会を常置するほか必要な場合には臨時委員会を設けることができる。委員会に関する規定および委員は理事会で定める。委員の任期は役員の変更期に準じた2年とし、再任を妨げない。

- (1) 編集委員会
- (2) 学会賞選考委員会

3. 研究部門には、緑化に関する重要課題の研究を推進するため、部会を置くことができる。

4. 第1項及び第2項に規定する部門長、部会長及び担当理事は理事会で定める。なお、部門長、部会長及び担当理事は兼任することができる。

5. 研究部門の各部会の設置、解散は理事会で定める。

6. 各部会には、会務の執行を円滑に行うため、幹事を置く。幹事は、正会員の中から各部会長が推薦し、理事会で定める。

4. 研究部門には、緑化に関する重要課題の研究を推進するため、部会を置くことができる。

5. 各項に規定する担当理事及び部門長、部会長、委員長は理事会で定める。なお、各々は兼任することができる。

6. 研究部門の各部会の設置、解散は理事会で定める。

7. **各部会および委員会には**、会務の執行を円滑に行うため、幹事を置く。幹事は、正会員の中から**部会長、委員長が推薦し**、理事会で定める。

(委員会)

第40条 会務を執行するため必要であるときは、委員会を設置することができる。委員会に関する規定は、理事会が定める。

※旧第40条は削除（委員会定義は34条へ）

(附則の追加)

附則 この会則は、平成30年9月〇日から施行する。

(以 上)